

## ドイツ留学体験記

工学専攻電子物質科学コース 井上雄希男

私は大学間協定に基づく交換留学という制度でドイツヴッパータール大学に約10ヶ月間留学しました。この制度では自分の興味のある授業の履修をすることができ、大学の施設も自由に使用することができます。

ドイツではヨーロッパ諸国をはじめ、世界中から学生が集まっています。私が履修していた外国人向けのドイツ語コースでは、様々な国からそれぞれの目的を持った学生が学んでいました。同じ教室で過ごすなかで、同年代の学生が考えていることや感じていること、どのような状況で何を目的に勉強しているのかなど、リアルな声を聞くことができました。このことは私にとってすごく刺激となり、モチベーションになりました。

ドイツは移民や難民を多く抱えているため、外国人に対して寛容な人が多いです。自分が外国人という立場になることで異文化に対する壁はなくなり、誰に対しても個人として接することができるようになったと思います。

私は学生のうちに世界に出て経験を積みたいという漠然とした気持ちで留学をしました。工学部生として留学する意味について自問自答をした時期もありました。結果的に様々な人の価値観を学び、人として成長できたと確信しています。



ドイツ語コースのクラスメート

## SSSV活動報告

工学専攻 機械工学コース 内山泰希

SSSV(海外研究室交流プログラム)は、参加学生が、海外の大学の工学系・情報学系研究室との協働活動を通じて、海外の同世代の学生と交流を行うことで、工学・情報学系人材に必要な外国語能力、発表討論能力、国際感覚の重要性を認識し、自律性を持って学び、自己発展できる人材となることを目的としている。

2016年10月にSSSVを利用し、約2週間ロシアのアムール州立大学に滞在した。各学生が英語で研究発表を行い、意見を交換するなど研究分野における交流を行った。更に、日本ロシア間での文化紹介を行い、互いに異なる文化・生活習慣を知る良い機会となった。また、アムールは中国国境付近であることから、ロシア語・中国語のみしか通じず、我々の学んだ日本語・英語が意味をなさない場面があった。その場合でもボディランゲージ等の方法でコミュ

ニケーションを取るなど、言語が通じずとも交流を行う能力・姿勢が養われた。今回のSSSVは学生のための滞在であったことも起因し、学生の自主性と外国語能力、国際感覚を多いに成長させる機会となった。

今回のSSSVを経験したことで、将来学生が国際的な立場で率先的に活躍できる人材となることができれば幸いである。



## 静岡大学ロボットファクトリー

部長 柳川 諒

静岡大学ロボットファクトリーは、全国規模のロボットコンテストでの上位入賞を目指して、ロボットの企画と設計製作を行っています。2017年3月に開催された日本機械学会主催のロボットグランプリでは「カップ麺自動調理器」を製作して大道芸部門に出場し、準優勝を獲得しました。このロボットは、カップ麺の調理から配膳までを自動で行うもので、機構の制御や画像処理を駆使してカップ麺を操る技術が高く評価されました。また、毎年神戸で全国大会が開かれるレスキューロボットコンテスト(災害救援ロボットのコンテスト)の書類審査も通過し、東京での予選大会への出場も決定しました。いろいろな学科の学生が集まって日々技術の向上に取り組んでいます。良い成績を残すよう頑張りますのでご声援を宜しくお願い致します。



ロボットグランプリへの出場メンバーで準優勝の記念写真

### 《Webアンケートのお願い》

工学部の様子をより的確にお知らせし、紙面の充実を図るためにWebアンケートを実施いたします。  
静岡大学工学部ホームページ>>工学部ニュースレターはまかぜのページ上の「はまかぜアンケート」よりご意見をお寄せください。  
<http://www.eng.shizuoka.ac.jp/mc/1/70.html>

ご意見お問い合わせは下記へお願いします。

〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1  
静岡大学浜松総務課副課長(工学部担当)

TEL.053-478-1001

FAX.053-478-1005

E-mail engkoho@adb.shizuoka.ac.jp